

わが谷は緑なりき (How Green Was My Valley)

観賞日 2023年5月22日 上映時間 118分

【概要】

制作 1941年 アメリカ

監督 ジョン・フォード

原作 リチャード・レフェリン『How Green Was My Green』

脚本 フィリップ・ダン

音楽 アルフレッド・ニューマン

撮影 アーサー・C・ミラー

出演 ウォルター・ピジョン (グリユフィド牧師)

モーリン・オハラ (長女・アンハード)、ドナルド・クリスプ (父・ギルム)

サラ・オールグッド (母・ベス)、ロディ・マクドウォール (末っ子・ヒュー)

アンナ・リー (フローウィン)



【あらすじ】

19世紀後半、ウェールズの谷間にある炭鉱町。父親と息子5人が炭^ア鉱^マで働くモーガン一家。近くの製鉄所が倒産して、その労働者が炭鉱に流れ込み炭鉱主は賃下げを発表する。労働者は対抗上、組合を結成、息子たちはストに参加するが昔気質な父親ギルムは反対し、息子たちは家を出る。ストは長期化するが、グリユフィド牧師の説得で仕事は再開される。美人の長女アンハードに炭鉱主の息子との結婚話が持ち上がる。アンハードの気持ちは牧師にあったが牧師は踏み切れない。末っ子ヒューが兄弟で初めて町の学校に通う。ヒューは優秀な成績で卒業するが兄達と同様、故郷の炭鉱で働く決意をする。

炭鉱で働く長兄の落盤死。二人の兄の解雇。他の二人の兄が故郷を離れてアメリカへ移住。家族がバラバラになっていく。結婚生活がうまくいかず戻ってきた姉に対する心ないうわさで教会を去る羽目に陥る牧師。そんな時、またしても落盤事故が起き・・・。

ウェールズの谷間にある炭鉱で生きるモーガン家の人々を末っ子のヒューの目を通して描いたジョン・フォードの名作。

【解説】

■ポイント

●ウェールズ

イギリスを構成する4つの国の1つ。13世紀にイングランドに征服され、16世紀には統合法によりイングランドと一体になる。石炭を筆頭に地下資源に恵まれイギリスの産業革命を支えた。

1997年に住民投票により独立議会の設置が認められる。

面積：2万平方km (イギリス全体の8%)、人口：300万人 (イギリス全体の5%)

首都：カージフ (人口30万人)、その他：ラグビーと歌が盛ん

●受賞 (1942年第14回アカデミー賞)

10部門にノミネートされ5部門で受賞

作品賞、監督賞、助演男優賞 (ドナルド・クリスプ)、撮影賞、美術賞

■見どころ

●冒頭の末っ子ヒューの故郷への愛情あふれるナレーション

●宗教観、労使対立、階級問題・・・てんこ盛りの内容

●終盤、牧師の最後の説教